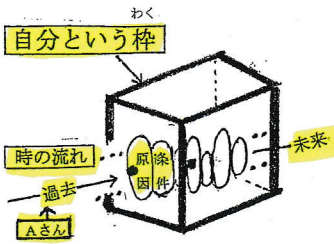


1 釈迦(ブツダ)の空

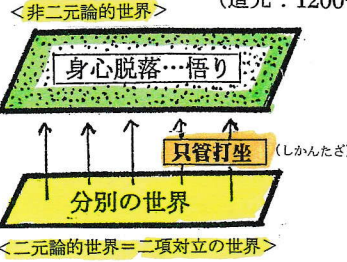
(釈迦: B C 463~B C 383)



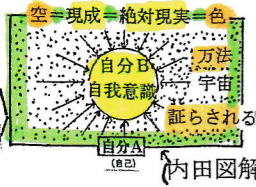
- 自分という枠はあるが、自分というものは原因・条件(縁起)で生成・消滅を繰り返すので、本質(実体)は問えない(ない)。
- 「空」とは、あるものにある性質が欠けている…固定的な実体がない。
- 「空」とは、形(枠)はあるが本質はない。

道元の悟り

(道元: 1200~1253)



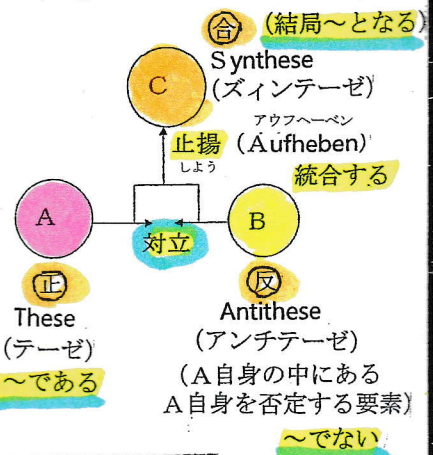
道元は悟りを言語化した。(ひろさちや)



正法眼蔵: 「仏道をならふというは…身心をして脱落せしむるなり」→仏道を学ぶ事は、自己を学ぶ事。自己を学ぶ事は、自己を忘れる事。自己を忘れる事は、方法(全ての存在)によって証(さと)らされる事。方法に証(さと)らされるとは、身心脱落…自己・他己の意識や執着心等がなくなる事…である。

ヘーゲルの弁証法

(Hegel: ドイツ: 1770~1831)

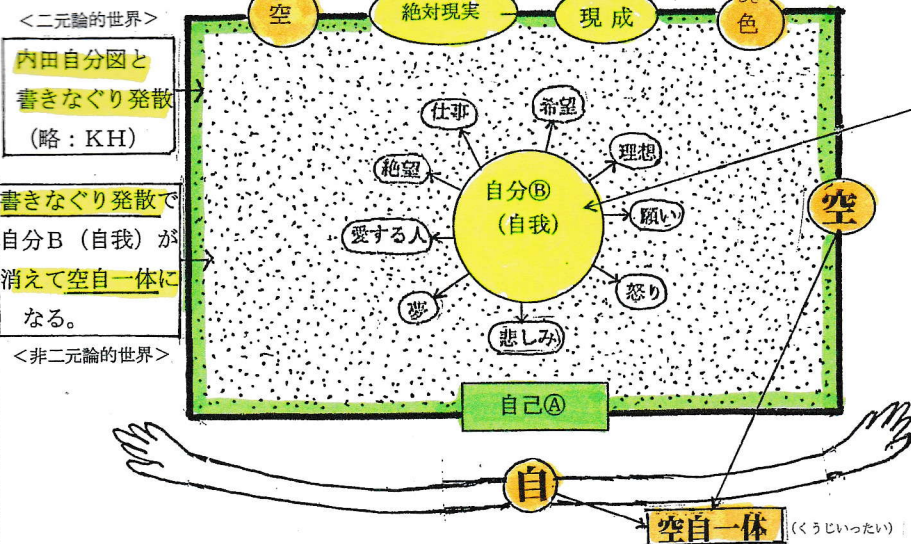


禪の悟りは弁証法とは異なる(鈴木) 大拙。

☆自己と自我の関係を示す自分図で、頭に浮かぶ全てを書きなぐり発散し、頭を空っぽにする。

(2009・4・8 内田自分図(セルフマップ)で、悟りを図式化(図解)した。

悟りの図解①



自分Bを指で隠すと? →悟りが実感!
 <非二元論的世界>
 有るけど無い(色→空)。
 無いけど有る(空→色)。
 (自分B(自我)が気にならない)。
 (自由な生活が可能になる)。
 ☆自己Aは無分別の自己、自分Bは分別の自己と考えられる。

☆実際は、「空自一体」の自覚はない(空っぽ)! ☆自分図は、自分を客観的に見るのに役立ちます。

- 悟りを言葉で表すと…
- ①無心で無分別の0才の自己。
 - ②家庭や学校で知性のある分別の自己の誕生。
 - ③病気や修行等で自己否定が起こり、知性(分別)カット。
 - ④無分別の自己 + 一度否定された無意識の分別の自己
 - ⑤無心の自己が自由な生活。外から見ると喜怒哀楽がある普通の人がそこにいる…としか見えない悟りの状態。
- …が同時に重なって共存する。…無心の自己の誕生。→悟り。

<補足>…①~④の出典: 現代日本思想体系8(絶版)・鈴木大拙、②西田幾多郎『善の研究』への序文。

- ①禅の悟りは心理学的にいうと、無意識を意識すること。
- ②西田の絶対無の哲学、言いかえると絶対矛盾の自己同一という彼の論理は、思うに、いささか禅体験に通じていなければ理解しがたいであろう。…彼は禅を西洋に理解させることを自己の使命と考えた。…西洋は知性に訴えて二元論的世界から出発するが、東洋は空の大地をしっかりと踏みしめる。
- ③エクハルトは「突破(とっば)」ということを用いる。これは明らかに悟りに該当する。…今までで連続していたものが、突如として断絶する様子である。非連続の連続、無分別の分別の体験に外ならぬ。
- ④…悟りでは無分別をみる、しかもその無分別のうちに分別を容れる。分別が無分別と別にならずして、一つになる。ここに悟りの妙がある。悟りの論理が建立せられる。
- ⑤無心の自己が自由な生活をするのが、禅の悟りの理想的な生活だ。(福島慶道・臨濟宗僧侶)